

令和7年度ヤングケアラー支援機関等研修会



ヤングケアラーを支える ネットワーク



～見過ごさない勇気、気づいたときにできること～

「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」（子ども・若者育成支援推進法）と定義されるヤングケアラー。そんな彼らに出会ったら、どのようなサポートができるのでしょうか。ヤングケアラーについて正しく学び、関係機関・団体・事業者などが連携した支援に向けて、それぞれができることを考えてみませんか。

受講料
無料

2026.1/30（金） 19：00～21：00 受付18：30～

※申込方法の詳細は裏面を確認ください。

えーるピア久留米 1階視聴覚ホール 久留米市諏訪野町 1830-6

ヤングケアラーに関わる市内の関係機関の支援者が対象

講師 澁谷 智子（しぶや ともこ）氏



成蹊大学文学部現代社会学科教授。聞こえない親を持つ聞こえる子ども（コーダ）や、家族をケアする未成年の子どもや若者（ヤングケアラー）について研究。専門は社会学。著書に『コーダの世界——手話の文化と声の文化』（医学書院、2009年）、『ヤングケアラー——介護を担う子ども・若者の現実』（中公新書、2018年）、『ヤングケアラーってなんだろう』（ちくまプリマー新書、2022年）など。

経験者スピーカー 宮本 江里子（みやもと えりこ）氏



山口県下関市出身。9歳頃から母が統合失調症を発症。中学2年生の5月まで自宅にて介護をおこなう。その後、母の入院を機に週末に介護をおこなう。高校へ進学したが、留年し20歳で卒業。21歳から東京へ上京したが、令和2年10月父の自宅介護をするため下関へUターン。父は予定より早く、1ヶ月後に他界。現在、Uターンを機に日本ケアラー連盟ヤングケアラープロジェクトにスピーカー登録し活動中。下関市を中心に講演会、研修会を実施。

